

「ルルド巡礼と初めての外国旅行を終えて」—— カトリック遠野教会 佐々木ふみ子 ——

松村さんからの「ニコ神父様と行くルルドへの巡礼の旅」の説明会で心に残ったのは、「体の弱い方やハンデのある方を対象にして始めたのがこのツアーだった」ということでした。外国旅行が初めてで不安だった私にとって、何か救われる思いがしました。

巡礼とは何か、祈りとは何か・・・皆目理解のない私でしたが、同行スタッフの佐藤さんの心配りを頂きながら、皆様と共に無事日本にたどり着き、日本の素晴らしさを実感できたことは、この上ない喜びです。そして、教会等建造物の偉大さ、人々との出会い、祈りの音調・教会音楽・・・学びと感動のある旅でした。ニコ神父様をはじめ、7人の神父様の個性と魅力あふれる出会いにも感謝しております。

最終日は、福田浩子さんの独唱・パイプオルガンの演奏・ニコ神父様司式のミサ・・・ハプニングでミゼリコルディアのテナントを掲げて、キム神父様と共に歌い唱えたこと。私にとって最高の思い出となることでしょう。毎日支えて下さった同行の皆様と、思い切ってこの巡礼に参加させてくれた家族に感謝！

2016・5・27 帰りの機中にて

松村様・佐藤様・福田様へ —— カトリック遠野教会 小山 俊壺・美光 ——

取り急ぎ機中にて感謝とお礼を申し上げます。

この度の巡礼の旅に参加させて頂きまして感謝に絶えません。10日間をご一緒頂きました44名の皆様方、素晴らしいプログラムを組んで頂きました松村様、グループを取りまとめて下さいました佐藤様、ご案内（添乗）からコンサートまで大変なお役をお努め下さいました福田様、感激でございました。ありがとうございました。

Parrocchia Sacro Cuore di Gezu 教会の皆様との交流はこの上ない喜びでした。そして、ミゼリコルディアを訪問。これはクライマックスでした。決して個人では出来ない尊い体験でございました。今後の暮らしの在り方に是非生かさせて頂きたく存じます。

東京でのパウロパパ様、二度目のヴァチカンでのコンクラーベの辺りの訪問、この度のパパ様謁見と三度もお恵みに感謝です。またファーザーピオ様と3年間ご一緒にいらした神父様のお話は、この目で、この耳で、素晴らしい出来事でした。

ニコ神父様、キム神父様、アンリ神父様、ガブリ神父様、ホセ神父様による大司祭団の御ミサに毎日与らせていただきました事、それも歴史的建造物である大聖堂での御ミサでございました事、どこのチャーチもこの上ないお恵みに幸せでございました。

締め切りの後に参加をご承諾いただきました幸せ、ましてや信徒ではない私の夫を受け容れていただけました事、私事ですぐは仏教の大和尚の家に生まれました夫が快く感謝を口にし、この旅に同行させていただけました事は大きな恵みでした。ニコニコの毎日素晴らしい十日間をありがとうございました。

(ニコ神父様のニコニコチーム一員の美光。)

『特別聖年ローマ・イタリア巡礼とルルドへの旅』に参加して —— 遠野教会 斉藤亜栄子 ——

盲人の夫と二人で参加しました。教皇様の謁見と「聖なる扉」の巡礼。こんな素晴らしいお恵みに感謝！毎日新しい企画が組まれていて、感激でした。「世界遺産」の教会群、パードレピオの古教会でのミサとグローブでの祝福、アシジのサン・フランテスコ修道院内の巡礼は、坂道がきつかった！そしてマリア・プロセッションで色々な国の人達と心を合わせて祈ったこと。ルルドの小教区教会のミサで、朗読のお恵みを頂いたこと、福田さんのパイプオルガンでの素晴らしい歌を聴いたこと等々思い出していま

す。 カルカッソヌでの昼食がおいしかったし、修道院でのパン・ブドウ酒、また料理はイタリアのそれに比べられない家庭的なおいしさでした。修道院では、静かに！といわれても興奮していてつい大声で話していました。ゴメンなさい。修道院での夕食の時ガブリ神父様が、私たちが結婚 50 周年であることを紹介してくださり、皆さんに祝福され、次の日の 15 時からのミサの時にも、ニコ神父様が開祭の挨拶の中で紹介してくださり、感激しました。また、夫がトイレの時、入り口で待っていると男性の方々が私の代わりに待っていてくださったことも感謝でした。最後になりましたが、毎日朝、夕の祈りをしてくださったキム神父様と、いつも私たちを気遣って楽しく笑わせてくださった神父様方、この旅に誘ってくださった松村さん、添乗員としてイタリア、ルルドのことなど沢山の事を教えて下さった福田さん、ありがとうございました。また 12 日間行動を共にした皆様に、心からありがとうございます。すべて神に感謝！！

追伸：最後になりましたが、佐藤さんには最大の感謝でした。今後もよろしくお願いします。

### 『イタリアとルルド巡礼を終えて』所感と司祭のこぼれ話 — 四ツ家教会 佐藤あつみ —

イタリアからフランス縦断の 10 日間、多い日には 20,000 歩を超える歩け歩け巡礼は、正直股関節に問題を抱える私にはハードそのものでした。それでも頑張れた理由・・・それは、杖をつきながら、足を引きずりながらも決して弱音を吐かない人達の強さがあったからだと思います。また、80 歳を超えた年齢の方々に寄り添う事で、逆に励まされたり、パワーを頂けたからだと思います。そして、何よりも素晴らしい司祭団とご一緒出来たからです。今回の巡礼は、過去に参加したどの巡礼よりも恵まれた巡礼でした。44 名の参加者中、5 名の司祭・・・8 人の巡礼者に 1 人の司祭がつく勘定です。そして、ルルドで合流し、サンチャゴに向う巡礼者は、4 人の巡礼者に 1 人の司祭という何とも贅沢限りない巡礼団です。二晩のルルドでの同宿同伴では、ルルドのローソク行列・グロットでの早朝ミサに共に与かり 7 名の同行司祭が一堂に会しての荘厳なミサ、その日のルルド小教区教会（ベルナデッタの洗礼受水盤のある教会）では、ニコ神父様司式のごミサにもご一緒し、添乗員も兼務された岡山の福田浩子さんの素晴らしいコンサートもこの巡礼の筆頭に値する心揺さぶられる皆様との共通の宝物になりました。フランスの列車のストにも関わらずこのコンサートのためにルルド入りして下さったオルガニストのパイプオルガンの荘厳さ・・・沢山沢山のお恵みと祈りが奏でられました。

今回の巡礼はお目出度い旅立ちでした。巡礼初日の 5/17、私達の先導司祭、ニコラウス神父様の 39 回目のお誕生日。殆ど飛行機とバスの移動の一日でしたが、44 名の参加者が、声を合わせて♪ハッピーバースデー、ニコラウス神父様♪の大合唱。私達も幸せのお裾分けをいただきました。

二日目には、ヴァチカンでパレードされているパパ様に約 3 メートルの距離でお目にかかれたことはこの旅のクライマックスとなりました。しっかり目と心に焼き付けて参りました。そして、遠野教会の斉藤委員長ご夫妻の結婚 50 年に当たるハッピー一年を記念しての巡礼参加であることが判り、岩手グループだけではなく、参加者全員にお祝いをして頂き、そのお祝いの意向のごミサも捧げられました。この巡礼で私達は齋藤さんご夫婦の微笑ましいお姿にどんなにか癒され、夫婦の在り方・共に生きて行くことの美しさを沢山学びました。すぐ自分が実行に移せるかは自信がありませんが、何か困難が生じた時お二人の姿を思い起こしたいと思えます。そしてそして、何よりも恵まれていたのはお天気です。バスの移動中や、ホテルに宿泊中の夜間にバケツをひっくり返したような大雨が降っても巡礼中は、一切の雨具を必要としませんでした。きっと神様が足を引きずってでもこの巡礼に参加して下さった方々へのご褒美を下さったのだらうと感謝しています。

さて、神父様こぼれ話に移ります。今回の巡礼はバス移動が多かったため、普段着の神父様のお姿に触れる機会が多くありました。この巡礼の総監督の広島呉教会の金神父様（韓国出身）は、41 歳のお若さな

がら、他の司祭がキム司教と呼ぶ程、落ち着きと高い見識の持ち主、そして韓流スターを思わせる甘いマスク。バスの中で毎日唱えられた朝の祈り、お告げの祈り、今日の福音、いつくしみの特別聖年の祈り、ロザリオ一環（夕方も一通り唱える）。こんなに毎日お祈りを沢山唱えたのは初めてかもという程にお祈りを捧げましたが、キム神父様のお声があまりに甘くマイクから流れるため、私の傍にいる司祭は、お祈りの時間になると何故か爆睡。そういう私も日が経つにつれ夢の中で唱える事が増えていったのです。キム神父様、甘いのはお顔だけにすると祈った次第です。（笑）

その爆睡神父様は、私の息子位の若さ。傍で私の余った肉をつまんで面白がり、前の座席の人達に「後ろの席は楽しそうね。ハ〜ホまで笑い声が聞こえるわ。」と言われてしまう程、笑って過ごす事が出来ました。ニースの海岸で上半身裸の女性に遭遇し（残念ながら背中向き）、その話をバスの中で嬉しそうに話すので、「目のやり場に困ったでしょ？」と言うと「いえ、お恵みでした。へへへ」と何とも憎めない笑顔。

でもその神父様が巡礼に参加するから私達は来ましたが、みんな神父様のファンですと所属教会の方々も仰っていましたので、きっと信徒の前では、大人の司祭なのでしょうと安心。（笑）・・・バラしてごめんね。

ケベック会の管区長をされていたガブリ神父様の朗らかさは、周囲の人達を笑いのつぼに落とし入れ常に笑顔の花を咲かせていました。フランス系カナダ人の神父様は、フランスのレストランで出された鴨と豚肉、白いんげん豆のシチューを召し上がりながら、「そうそう、この味。ママの味。」と目をうるませておりました。フランス語がペラペラの訳が分かりました。羊のぬいぐるみを抱えた姿チャーミングでした。

ニコラウス神父様の人と人との間に壁を作らず何方とでも旧知のように交流できるお人柄は、私達の誇りでした。皆様が「あんなにユーモアがすぐ出てくるなんて、頭の回転が素晴らしいですね。」と仰って下さって、自分が褒められたように嬉しかったです。その呼び名の通りニコニコグループのリーダーでした。

締めのおぼれ話は、決して名前を出さないでと念を押されましたので匿名神父様のお話です。匿名さんなのでT神父様としましょう。T神父様の先輩司祭で少しアル中気味の神父様が朝からお酒を呑んでしまい、当日予定されていた結婚式の司式に来たのは良いが、壇上に昇り祭壇に接吻をしたまま突っ伏して眠ってしまった。花嫁は泣き出すし困り果て、別の司祭を呼びに行き、取り合えず式は終わった。夕方自分の部屋で目覚めた司祭が言った。「大変だ。結婚式に行かなければ。」・・・嘘のような本当の話だそうです。

そして、もう一つ。やはりT神父様の先輩司祭のお話。フランスの修道院のごミサに行ったイタリア人司祭。お祈りの事をイタリア語では「ペテレ」と言うのだそうですが、フランス語で「p r i e r」。そのフランス語が出て来なかったのか、シスターズに一生懸命に「皆さんもっともっとペテを。真剣にもっともっとペテを。」と訴えたそうです。シスターズはみんな俯いて紅くなっていたそうです。だって、フランスで「ペテ」は、おならの意味なんですから。（本当の話だそうです。ハ〜ホまでの笑いの意味がお分かり頂けましたか？）因みにニコラウス神父様とT神父様は旧知の仲・兄弟のように仲良しになりました。普段はとても真面目なT神父様が、バスの中で豚のおもちゃを「ブヒブヒ」鳴かせて皆に見聞きさせ笑わせている滑稽なお姿もまたT神父様の素のお姿なのでしょう。楽しかったです。ありがとうございました。

今回私は、同行スタッフとしての参加でしたが沢山の至らなさを実感・反省しています。それでも参加できた事の喜びと、沢山の貴重な出会いと触れ合いに心から感謝しております。多くの方たちとまた会いましょうと約束しましたので、また参加出来る日まで足腰鍛えて頑張ります。